

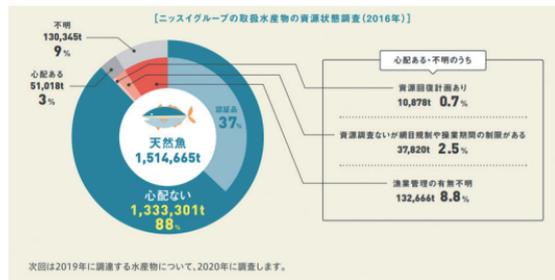


《将来に向けた取組方針》

ニッスイグループは、自ら調達し利用する水産物の資源状況については、定期的な調査とその対応が重要だと考えています。個々の課題への対応を続けることで、「2030年までに調達する水産物について、持続性が確認されている」状態を目指します。また、持続的な養殖事業の実現に向けて水産エコラベル認証の取得を進めているほか、養殖事業の規模の拡大にともない懸念される海洋環境への負荷について、陸上養殖の事業化実証実験を進めるなど、新しい技術開発にも積極的に取り組んでいます。その他にも、全国の事業所周辺地域の自然環境において、生態系保全活動を行っています。

【ニッスイグループ取扱水産物の資源状態調査】

グループ会社（国内28社、海外16社）における2016年の天然魚の取引実績をもとに、資源調査を行いました。調達した天然魚資源の88%は、MSCなどの水産エコラベル認証品や生物学的に持続可能なレベルにある資源の範囲にあり、「心配ない」と分類しました。2018年以降は、残る「心配ある」「不明」の資源について、絶滅危惧種か、管理された漁業か、資源回復計画があるかの確認を加え、さらに調査しています。「心配ある」一部の魚種については、今後の取組方針を定めるなどの対応を進めました。さらに「不明」魚種の資源状況を確認するため、様々な行政機関・団体・研究者から情報収集を進めており、FIP（漁業改善プログラム）などでのパートナーシップの可能性を検討しています。



【「森・川・海」の保全】

水産資源の持続可能な利用のためには、今ある資源を管理することはもちろん、海そのものの力を維持・回復させる努力が必要です。そのため「森・川・海」を一体と考えた保全活動を行っています。

2018年10月30日には、鳥取県*、琴浦町およびニッスイの3者で森林保全・管理協定を締結し、船上山の森林5.933ヘクタールを「おさかなをはぐくむ湧水と海を守る森」と名付けて保全していくこととしました。

*鳥取県では、ニッスイのグループ会社である弓ヶ浜水産(株)が養殖・加工事業を、共和水産(株)が漁業を営んでいます。

